

<生活>

地域の自然や人々とかかわる力をはぐくむ授業づくり — ゴーヤーを育てようの活動を通して —

那覇市立松川小学校教諭 吉 村 聡 子

I テーマ設定の理由

生活科の目標では、身近な人々や社会、自然とかかわること、自分の住む地域に愛着を持つこと、遊びや生活を工夫することができるようにすること、活動の楽しさを味わうことやそれを表現できるようにすることなどが重視されている。

学年目標(1)では、「児童が自分と身近な人々や社会とのかかわりに関心を持って、それらと主体的にかかわり合い、自分の住む地域に愛着を持つとともに、その中で適切に行動できるようになること」を目指している。また、指導計画作成上の配慮事項に、「(1)地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱うように学習活動を工夫すること」とあり、地域の人々、社会及び自然を生かすことが求められている。

これまでの自分の実践を振り返ってみると、地域の自然、環境、人材の把握が弱く、地域の特性を生かした学習素材を授業の中で効果的に生かすことができなかった。さらに、学習素材の吟味が十分でなかったため、ゆとりを持った計画的な学習活動を展開することが難しくなることもあった。体験的活動も教師の一方的な働きかけが多かったため、児童が身近な自然や人々とのやりとりをする中で、感じ、考え、気付いたことを生かして、地域の自然や人々とかかわる力をはぐくむ指導が弱かったと考える。

そこで、1年生でアサガオを育てた経験を基に、2年の生活科においては、沖縄の特産物であるゴーヤーを育て、まわりの人々と直接かかわる体験的活動を試みたい。こうした活動によって、自分の身近な自然や人々へ関心を持ち、地域にかかわる力をはぐくむ授業づくりが展開できようと考え、本テーマを設定した。

<研究仮説>

身近な素材「ゴーヤー」を教材化し、児童がまわりの人々とかかわる力を多く持つ体験的活動を工夫し実践すれば、地域の自然や人々とかかわる力が育成されるであろう。

II 研究内容

1 生活科における「かかわる力」

生活科は、具体的な活動や体験を通してかかわることで気づきを深め、それを自分の生活に生かし自立への基礎を養うことを目指している。活動と思考が未分化で、対象と直接かかわることを通して思考する低学年の児童にとって「かかわる力」は自立への基礎を養う上で必要なものである(図1)。

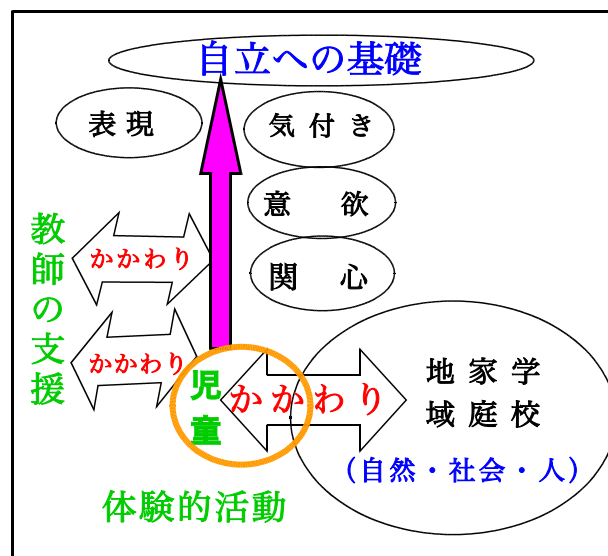


図1 児童と身近な人々やまわりの環境とのかかわり

(1) 直接かかわる活動のねらい

教育課程の改善によって、身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験を一層重視することが求められている。

そのねらいの一つは、身近なものに意欲を持ってかかわり取り組むことで気づきを増やすことである。もう一つのねらいは、人とかかわることで社会の一員としての自覚や人との適切な接し方などを身につけることである。特に少子化・高齢化などの社会状況の変化に伴って、人とかかわりは今まで以上に重視されている。

(2) かかわる力とは

対象とかかわりを持つためには「かかわる力」が必要となる。今回は生活科における「かかわる力」

を下記の2つに分けて考えることにする。

《主に社会及び自然とかかわる力》

①新しいものや不思議だなと思ったことを見つけることができる。

②関心のあることについて調べることができる。

③わかったことを次の学習や自分の生活に生かすことができる。

《主に人とかわる力》

①人と素直に挨拶や話ができる。

②人のよさを認め適切な接し方ができる。

③自分の思いを人に伝えることができる。

2 かかわる力をはぐむための手立て

かかわる力をはぐむためには、体験的活動の過程で適切な評価と支援が必要になってくる。

(1) 体験的活動とは

浜田純（1996）によると、体験的活動とは「実験、観察、製作、見学、飼育、栽培、勤労、実習などの直接的・現実的な体験」であり、生活科では「体験的活動そのものが目標であり、内容であり、方法である」と言っている。小学校指導書生活編（1999）からは、身近な人々、社会及び自然に関する活動として「見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ」ことなどが挙げられている。

(2) かかわる力をはぐむ体験的活動例

体験的活動例には下記の活動が考えられる（表1）。

表1 かかわる力をはぐむ活動例

社会及び自然とかかわり	・健康で安全な生活を送るために、学校での生活の仕方や乗り物の正しい使い方ができるよう、校内や自分たちの町を探索したり、実際に乗ってみたいとする。
	・学校の施設や他の公共施設、公共物の正しい使い方を理解し、使えるように見学したり、利用したりする。
	・身近な自然の季節の変化や、動植物の成長の様子を楽しみながら、観察したり、飼育・栽培したりする。
	・身近にある自然物とのふれあいができるように、野外での観察や採集を季節ごとに行う。
人とかかわり	・自分のまわりの人たちや店の人との適切な接し方ができるように、挨拶したり、質問したりしてみる。
	・相手とのコミュニケーションを図ったりするために、手紙や新聞を作成したり、電話のかけ方を学び、実際に送ったり、かけたりしてみる。
	・身近にある物を使って何かをつくるおもしろさを味わいながら、作った物で友だちと遊んだり、生活に役立てたりする。

(3) 教師に求められるもの

教師は、児童一人一人に即して、体験的活動にお

けるその子なりのかかわり方を認め、思いや願いを大切に、その多様性に応じた支援を行わなければならない。

目標に沿って学習したことを評価し、それに基づいて支援していかなければならない。そのためにも評価計画は是非必要である。

教師のこのような支援が、児童のかかわる力をはぐむためには必要なのである。

3 地域素材のよさ

児童の身近にあり、それを通してまわりの人とふれあったりできる地域素材は「働きかけるだけでなく、それらが児童に働き返してくるという双方向性のある活動」を展開し、地域の自然や人々とかかわる力をはぐむことが期待できるものである。

4 地域素材の教材化

教材に適した素材とは地域の自然や人々にかかわることで様々な知恵を学び、自分の生活に生かせるような素材であるとする。

5 「ゴーヤー」について

本校区は、特に目立った公共施設や農家や工場、大きな商店街などない住宅地である。そこで、地域の特色を沖縄全体に広げ沖縄独特の夏野菜「ゴーヤー」を地域素材として考察してみた（表2）。

表2 ゴーヤーの特徴

栽培地	古くから沖縄で栽培されている野菜である。今日では、食生活の多様化により沖縄県以外でも栽培がすすみ消費されている。特に南九州地域には、戦時中の疎開とともに広まり栽培が定着した。
収穫	夏である。夏バテ解消に沖縄の家庭の夏野菜として重宝されている。
品種	青長種、白長種など数種ある。緑色の濃い品種ほど苦味が強い。白色種は苦味が弱い。
播種育苗	2月後半から3月いっぱいまでが種まきの適期である。収穫開始は種まき後90～100日後なので、学校で栽培するならば苗からの方がいいと思われる。2m四方の畑に本葉4～5枚になった苗を1本定植する。
育て方	棚作りと地這い作りがある。どちらの場合もつるが込みあててくると着果が悪くなり収穫が減ってくるので、枝を適除し黄葉を摘み取り日光によく当てると良い。
栄養価	ビタミンC含有量が多く、レモンの1.3倍も含んでいる。最も多い食べ方が豆腐、モヤシとのチャンプルーである。油炒めにしてもビタミンCはほとんど減少しない。

地域素材の教材化の視点に沿って「ゴーヤー」素材の教材的価値について考察した（表3）。

表3 地域素材「ゴーヤー」の教材的価値についての考察

	地域素材の教材化の視点	「ゴーヤー」素材の教材的価値
①	児童が興味・関心を持ち意欲的に活動できるか。	・独特の苦味から好みははっきりと分かれてしまうが、それ故にインパクトがあり興味・関心を持ちながら活動を続けられるであろう。
②	身近にあり直接かかわることができるか。	・身近なスーパーなどには必ずあり、農家のない松川校区にも庭先で栽培している家庭がいくつかあって、直接かかわることができる。
③	必要な量が確保でき取り扱いが容易か。	・低学年の児童でも栽培が可能である。
④	児童が繰り返しかかわることが可能か。	・繰り返しかかわることが可能である。
⑤	季節感があるか。	・沖縄独特の夏野菜である。
⑥	児童がこれまでの生活体験を生かし、さらに学びを深めていけるか。	・1年生で同じつるもののアサガオとキュウリを育てており、その経験を生かして成長の様子を観察や栽培ができそうである。
⑦	地域の特性を生かすことができるか。	・沖縄独特の夏野菜である。
⑧	地域の人々、社会及び自然を一体的に扱うことができるか。	・畑の先生として、料理の先生として地域の人材活用ができる。
⑨	地域に対する興味・関心が高まり、地域への愛着を持つことができるか。	・沖縄の特産物を育てる中で、地域の食文化に触れたり、地域の人々と交流したりして、地域への愛着も育つのではないかと。

以上の考察の結果、「ゴーヤー」は地域の自然や人々とかかわる力をはぐくむ生活科学学習の素材として適していると考えられる。

6 地域の人材

地域の素材を扱って学習を進めていくときに、もう一人の支援者としての役割を担ってほしい人がここで言う「人材」である。

特に、地域の素材を扱う学習では、教師も教材研究を深めることは勿論であるが、その地域に住みその素材についての知識を多く持つ人材が活用できれば児童の興味・関心も高まり、地域へのかかわりや愛着を深めることができるのではないかと考える。よって、人材の発掘は重要なことである(図2)。

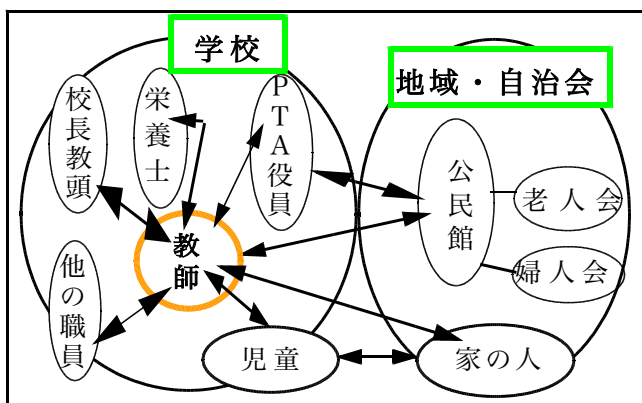


図2 人材の探し方の例

III 指導の実際

1 単元名 ゴーヤーを育てよう 第2学年)

2 単元目標

(1) ゴーヤーやそれを育てることに関心を持ち、自然やまわりの人とかかわろうとしている。

【関心・意欲・態度】

(2) ゴーヤーの育て方や栄養について教えてもらったり、お世話をしたりして発見したことなどをいろいろな方法で表現してまとめ、まわりの人に伝えることができる。

【思考・表現】

(3) ゴーヤーを育てることを通して、その成長の様子や地域の人を含めまわりの人の知恵や優しさなどに気付いている。

【気付き】

3 単元を通して育てたい子どもの姿

(1) 地域の自然やまわりの人々に進んでかかわる子
(2) 野菜の栽培や成長の様子、栄養について関心を持つ子

(3) 安全に気をつけて活動できる子

(4) 気付きや思いを自分なりに工夫し、楽しんで表現できる子

(5) 自分とまわりの人のよさに気付き、お世話になった人々に感謝の気持ちが持てる子

4 学習指導要領の内容とのかかわり

今回は生活科8項目の内容の(3)と(7)にかかわる。

(3)地域と生活 自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることがわかり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

(7)動植物の飼育・栽培 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命を持っていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

5 活動計画 () は生活科のみの時数と①～③はそれぞれの時数 ★は教師の支援、[] は評価の時間

過程	活動の流れ	か か わ り							評価の 観点と方法
		ゴー ヤー	畑の 先生	友 だ ち	教 師	栄 養 士	校 長 教 頭	他 学 年 児	
で あ う	ゴーヤーを植えよう (3時間)								・ゴーヤーを育てること に関心をもつことができる。【関心・意欲・態度】 〔1・2〕 ・まわりの人とかかわり に関心を持つことができ る。【関心・意欲・態度】〔1・2〕
	1. 畑の準備をしよう② ★畑の先生やゴーヤーとの出会いが次への意欲につな がるように、苦くないゴーヤージュースやゴーヤーゼ リーなどを用意したりして楽しい雰囲気作りをする。 見つけたよカード1)	○	○	○	○				
か か わ る	2. 苗を植えよう① ★苗を折らないように気をつけさせる 見つけたよカード2)	○	○	○	○				・ゴーヤーを育てること に関心を持つことができ る。【関心・意欲・態度】 〔6・常時活動〕 ※お世話や観察は朝や掃 除時間、休み時間や放課 後の常時活動で行う。 ・まわりの人とかかわり に関心を持つことができ る。【関心・意欲・態度】 〔4・6・12・14〕 ・ゴーヤーについて絵や 文に表現することができる。 【思考・表現】 〔4・6・12〕 ・ゴーヤーの成長の様子 やまわりの人とかかわり のよさに気付いている。 【気付き】 〔4・6・12・14〕
	見つけよう、作ろう (7時間)								
	3. 「特活」好き嫌いなく食べよう①	○		○	○	○			
	4. 見つけたことをゴーヤー新聞にかこうーその1ー① ★自分たちが見つけたことを、畑の先生や校長先生たち に知らせるためにかこうと、読む相手を意識させてかか せる。 新聞1)	○	○	○	○	○	○	○	
	5. 「国語」新聞の記事をかこう① ★順序に気をつけてかかせる。	○	○	○	○	○	○	○	
	6. 観察やお世話したことを記録しよう② ★各自の気付きを育ててあげる。 見つけたよカード3)	○		○	○				
	7. 「音楽」ゴーヤーの替え歌を作ろう①	○		○	○				
	8. 「体育」『ゴーヤーでゴー』を踊ろう①	○		○	○			○	
	9. 「図工」「うつしてうつして」② ★ゴーヤーの輪切りの断面を利用して作ったスタンプ で模様を作り、うちわに貼らせる。家の人にも協力して もらい、ブッカーで仕上げるようにする。	○		○	○			○	
	《家庭学習》 ・家の人とゴーヤー料理を調べ、作って食べてみよう。	○						○	
	10. ゴーヤーについて、知りたいことを話し合おう① ★ゴーヤーのどんなひみつが知りたいか、各自の興味・ 関心が引き出せるようにし、まとめの発表会につなげら れるようにする。	○		○	○				
	11. 「国語」図書室や生活科室で調べてみよう①	○		○	○				
	12. 見つけたことをゴーヤー新聞にかこうーその2ー① 新聞2)	○	○	○	○			○	
	13. 「国語」招待状を作ろう① ★ゴーヤー収穫の感謝の気持ちを込めて、畑の先生や校 長先生、教頭先生、栄養士の先生方への招待状をパソコ ンで作らせる。	○	○	○	○	○	○		
	14. 収穫したゴーヤーで感謝の会をしよう② ★各クラスのお母さんたちに協力してもらい簡単なゴ ーヤー料理を作ってもらい。 ★畑の先生や校長先生、教頭先生、栄養士の先生などを 招待して、楽しくゴーヤー料理を食べる雰囲気を作る。 見つけたよカード4)	○	○	○	○	○	○	○	
ひ ろ げ る	調べたひみつをまとめよう (7時間)								・発表会の準備ができ る。【関心・意欲・態度】 〔16〕 ・調べたことや分かった ことなどを発表すること ができる。 【思考・表現】〔18〕 ・ゴーヤーの成長の様子 やまわりの人とかかわり のよさに気付いている。 【気付き】〔16・19〕
	15. 発表会の計画を立てよう① ★これまでお世話になった方々を招いて学習のまとめ を発表できるように計画させる。 ★自分の興味・関心に基づいて、発表内容や発表したい 者同士でグループ編成ができるよう意見をまとめたり 支援する。	○	○	○	○	○	○	○	
	16. 準備をしよう③	○		○	○				
	17. 「特活」発表会の会場準備①			○	○				
	18. 発表会をしよう② ★各自、まとめたことが効果的に発表できるように場の 設定や時間配分に気をつける。 (本時)	○	○	○	○	○	○	○	
	19. 振り返って、活動のまとめをしよう① ★人とかかわりのよさを気付かせながら、お礼の手紙 を書かせる。 お礼の手紙)	○	○	○	○	○	○	○	



6 評価規準表

(3, 5, 7, 8, 9, 11, 13, 17 時間は他教科の時間である。)

単元	過程 時間	評価規準 (評価観点)	判断基準			評価方法
			十分満足できる (◎)	おおむね満足できる (○)	努力を要する (△)	
ゴーヤを育てよう	1	・ゴーヤを育てることに興味を持つことができる。	・ゴーヤの成長を楽しみにしながら、畑の準備や苗植えができる。	・ゴーヤを育てるための畑の準備や、苗植えができる。	・教師や友だちに促されて、畑の準備や苗植えができる。	・行動観察 ・つぶやき ・見つけたよカード (1・2)
	2	【関心・意欲・態度】 ・まわりの人とかかわりに興味を持つことができる。	・挨拶したり話したりしながら、説明をしっかりと聞いて作業をするなど、まわりの人々に進んでかかわろうとしている。	・まわりの人の説明をしっかりと聞いて、作業を進めることができる。	・教師や友だちに促されて、作業ができる。	・行動観察 ・つぶやき ・見つけたよカード (1・2)
	4 6 12 14	【関心・意欲・態度】 ・ゴーヤを育てることに興味を持つことができる。	・挨拶したり話したりしながら、説明をしっかりと聞いて作業をするなど、まわりの人々に進んでかかわろうとしている。	・まわりの人の説明をしっかりと聞いて、作業を進めることができる。	・教師や友だちに促されて、作業ができる。	・行動観察 ・つぶやき ・見つけたよカード (3・4)
	6 常時活動	・ゴーヤを育てることに興味を持つことができる。	・ゴーヤの成長を楽しみにしながら、水かけなどのお世話ができ、変化の様子をしっかりと見ることができる。	・ゴーヤのお世話をしたり、成長の様子を見ることができる。	・教師や友だちに促され、お世話をしたり、成長の様子を見ることができる。	・行動観察 ・つぶやき ・見つけたよカード (6・常時活動)
	4 6 12	・ゴーヤについて絵や文に表現することができる。	・ゴーヤについて気付いたこと、発見したことを詳しくわかりやすく絵や文に表現することができる。	・ゴーヤについて気付いたこと、発見したことを絵や文に表現することができる。	・友だちのまとめ方を見たり、教師の助言を受けながら、絵や文をかくことができる。	・新聞 (1・2) ・見つけたよカード (1・2・3)
	4 6 12 14	・ゴーヤの成長の様子やまわりの人とかかわりのよさに気付いている。	・ゴーヤの成長の様子やお世話の仕方、疑問に思ったことを尋ねたり調べたりしながら、まわりの人とかかわるとより多くの知識を得られたり助けられるということに気付いている。	・ゴーヤの成長の様子に気付く、まわりの人を意識しながら行動している。	・教師や友だちの助言を受けながら行動している。	・行動観察 ・つぶやき ・見つけたよカード (3・4) ・新聞 (1・2)
	16	・ゴーヤについてわかったことや気付いたことをまとめ、発表会の準備ができる。	・ゴーヤについて自分が発表したいことを分かりやすくまとめたり、聞き手がよく分かる発表ができるように練習したりすることができる。	・ゴーヤについてわかったことや気付いたことをまとめ、発表会の準備ができる。	・教師や友だちの助けを借りて発表会の準備ができる。	・行動観察 ・作品
	18	・調べたことやわかったことなどを発表することができる。	・調べたことやわかったことなどを、聞き手がよくわかるように発表することができる。	・調べたことやわかったことなどを発表することができる。	・教師に助けられながら、発表することができる。	・行動観察 ・発表内容
	16 19	・ゴーヤの成長の様子やまわりの人とかかわりのよさに気付いている。	・ゴーヤの成長の様子やお世話の仕方、疑問に思ったことを尋ねたり調べたりしながら、まわりの人とかかわるとより多くの知識を得られたり助けられるということに気付く、感謝している。	・ゴーヤの成長の様子やまわりの人に感謝している。	・教師に促され、お礼の手紙を書くことができる。	・発表内容 ・お礼の手紙
	16 19	・ゴーヤの成長の様子やまわりの人とかかわりのよさに気付いている。	・ゴーヤの成長の様子やお世話の仕方、疑問に思ったことを尋ねたり調べたりしながら、まわりの人とかかわるとより多くの知識を得られたり助けられるということに気付く、感謝している。	・ゴーヤの成長の様子やまわりの人に感謝している。	・教師に促され、お礼の手紙を書くことができる。	・発表内容 ・お礼の手紙

7 本時の展開

- 単元名「ゴーヤを育てよう」
- 活動名「ゴーヤのひみつをはっぴょうしよう」(15, 16/17 時間)
- ねらい ゴーヤについて、調べたことやわかったことなどを発表することができる。
- 展開

内 容		(3) 地域と生活	(7) 動植物の飼育・栽培																								
具体的な視点		イ・身近な人々との接し方		カ・身近な自然とのふれあい																							
児童の活動		教師の支援		準 備	評 価																						
1.めあてを考える。		・発表の準備を頑張ってきたことを誉め、元氣よく発表するよう励ます。 ・めあてを貼り、確認させる。 ・はなしの聞き方も確認させる。 ・友だちの発表のよさを気付かせるようにする。 ・司会者を紹介する。自信を持って発表できるように司会者の近くにいる。			・発表会の表示 ・プログラム ・めあてカード ・移動掲示板 ・長テーブル ・マイク ・ラジカセ ・テープ ・発表用の作品や道具 ・ゴーヤについて調べたことなどを発表することができる。 【思考・表現】 (行動観察、発表内容)																						
2.グループごとに発表する。																											
①司会者の自己紹介 はじめの挨拶 (2人)																											
②各クラスグループごとに発表																											
③児童の感想の発表																											
④父母や畑の先生方の感想																											
⑤「ゴーヤでゴー」をみんなで踊る																											
⑥先生の話																											
⑦終わりの挨拶																											
		<table border="1"><thead><tr><th>3組の発表内容</th><th>発表内容の中にかかわった人</th></tr></thead><tbody><tr><td>①各クラスの替え歌</td><td>・教師、クラス全員、畑の先生</td></tr><tr><td>②ゴーヤのひみつ新聞</td><td>・教師、畑の先生、友だち、家の人 ・教師 (インターネット、図書資料)</td></tr><tr><td>・花のひみつ</td><td>・教師、畑の先生、友だち</td></tr><tr><td>・ゴーヤの歴史</td><td>・家の人、友だち、教師</td></tr><tr><td>・ゴーヤ畑に来る虫</td><td></td></tr><tr><td>③ゴーヤ料理の紹介</td><td></td></tr><tr><td>④ゴーヤの作品</td><td>・教師、家の人、友だち、畑の先生</td></tr><tr><td>・ゴーヤスタンプで作ったうわの作り方</td><td>・教師、友だち</td></tr><tr><td>・紙粘土で作ったゴーヤの模型</td><td></td></tr><tr><td>⑤紙芝居</td><td>・教師、友だち</td></tr></tbody></table>		3組の発表内容	発表内容の中にかかわった人	①各クラスの替え歌	・教師、クラス全員、畑の先生	②ゴーヤのひみつ新聞	・教師、畑の先生、友だち、家の人 ・教師 (インターネット、図書資料)	・花のひみつ	・教師、畑の先生、友だち	・ゴーヤの歴史	・家の人、友だち、教師	・ゴーヤ畑に来る虫		③ゴーヤ料理の紹介		④ゴーヤの作品	・教師、家の人、友だち、畑の先生	・ゴーヤスタンプで作ったうわの作り方	・教師、友だち	・紙粘土で作ったゴーヤの模型		⑤紙芝居	・教師、友だち		
3組の発表内容	発表内容の中にかかわった人																										
①各クラスの替え歌	・教師、クラス全員、畑の先生																										
②ゴーヤのひみつ新聞	・教師、畑の先生、友だち、家の人 ・教師 (インターネット、図書資料)																										
・花のひみつ	・教師、畑の先生、友だち																										
・ゴーヤの歴史	・家の人、友だち、教師																										
・ゴーヤ畑に来る虫																											
③ゴーヤ料理の紹介																											
④ゴーヤの作品	・教師、家の人、友だち、畑の先生																										
・ゴーヤスタンプで作ったうわの作り方	・教師、友だち																										
・紙粘土で作ったゴーヤの模型																											
⑤紙芝居	・教師、友だち																										
お礼とさよならの挨拶		・静かに聞けるように配慮する。 ・発表がすんだら良いところを賞賛する。 ・聞き取りメモは簡潔に書き込むように前日までに事前指導を済ませておく。 ・父母や地域の方々には、学習後も地域とかかわりが継続できるような内容の感想をお願いする。 ・今日のがんばりとこれまでの努力を誉める。 ・父母や地域の方々へお礼の挨拶をする。 ・今後も身近な自然や地域の方々をはじめまわりの人々と仲良くなり、地域を大切にするように話す。		・生活ノート																							
3.片づけをする。																											

8 授業の考察と仮説の検証

地域の自然や人々とかかわる力をはぐくむために、「ゴーヤー」を教材化し、児童がまわりの人々とかかわる体験的活動を工夫し実践した。そこで二つの視点から「かかわる力」をはぐくめたか考察を行う。

(1) ゴーヤーの教材化

「『ゴーヤーを育てよう』で楽しかったことは何ですか」というアンケートの問いには右記の体験的活動について楽しかったと答えている（図3）。

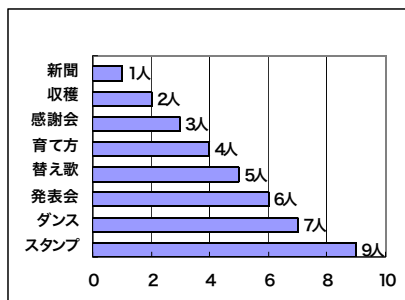


図3 楽しかったことは何ですか？

このような体験的活動から、児童の「見つけたよカード」や事後のアンケートには葉の形や成長の様子、ゴーヤに来る虫の種類など多くの気づきがかかれていた（表4）。「ゴーヤーのひみつ発表会」表4 よくわかったこと アンケートよりでは、体験的活動の中で気付いたり関心を持ったことについて調べたりまとめたりしたことを発表することができた。

よくわかったこと	
雄花と雌花について	
ゴーヤーの育て方	
いろいろな料理ができること	
ゴーヤーの苦味について	
ゴーヤーは水が好き	
ビタミンCが入っていること	
ゴーヤーが黄色くなってくる	
種が赤くなってくる	
色の濃いゴーヤーがおいしいこと	
ゴーヤーのいろいろなこと	

以上の結果から、児童は体験的活動を通して、主に社会及び自然とかかわる力をはぐくめたと考える。

(2) まわりの人々とかかわる力を多く持つ体験的活動

「野菜作りに詳しい人は誰ですか」という問いに事前の調査では「知らない」と答えた子が19人いたが事後の調査では多くの人の名前が挙がった（図4）。

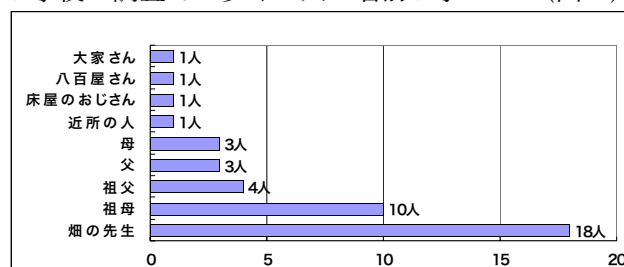


図4 野菜作りに詳しい人は誰ですか？ 事後

主な参考文献

- 嶋野道弘編 2002 『小学校生活科・総合的な学習 基礎・基本と学習指導の実際』 東洋館出版
 中野重人他 1996 『生活科事典』 東京書籍
 喜久山守良 1990 『沖縄でつくる楽しい家庭菜園』 沖縄出版

「学校の近くで野菜を作っている場所」についても「知っている」と答える子が30%も増えた。このように、授業の前後では地域やまわりの人々に対する認識も高まっていることがわかる。

また、畑の先生や栄養士などのかかわった人々と学校内外でも挨拶や話ができるようになったり、それぞれの人々のよさに気づき、感謝の気持ちがもてるようになった。特にK君については大きな変容が見られた。

〈K君の変容〉 手いたずらや私語は多いが人前で発表することは苦手だった。畑の先生への感謝のお手紙が上手に書けていたので感謝の会で代表として発表した。それが自信になり、積極的に畑の先生に話しかけたり、お世話や観察、発表会でも頑張るようになった。これからはゴーヤーを作りたいと言っている。ワークシートへの記入も増え積極的になった。

以上のことから、まわりの人とかかわる体験的活動によって人とかかわる力をはぐくめたと考える。

IV まとめと今後の課題

ゴーヤーを教材化し、栽培活動を中心とした体験的活動を通して「地域の自然や人々とかかわる力をはぐくむ授業づくり」をテーマに研究を進めてきた。

地域の人を畑の先生として迎え、身近な人々とかかわる力を多く持つ体験的活動を実践することで、ゴーヤーの成長の様子や人とかかわることの良さなどに気付くことができた。さらに、まわりの人々とうまくかかわりながら今後も栽培活動を続けたいという意欲を持つこともできた。ゴーヤーの栽培活動やまわりの人々とかかわる体験的活動を通して、地域の自然や人々とかかわる力をはぐくむことができた。

今後の課題としては、次の点が挙げられる。

- ・児童の意欲を高める地域素材の教材化と地域人材活用のための地域環境の把握（マップ作成等の地域資料の充実）
 - ・各単元の評価規準及び判断基準の作成
- これらを中心に今後さらに研究を進めていきたい。